

古市古墳群は、現在45基の古墳が地上に姿をとどめています。ですが、もとは130基以上の古墳があったことが、これまでの発掘調査で明らかになっています。逆に言うと、古墳が造られてから1600年の間に、85基もの古墳が姿を消したことになります。

古市古墳群で古墳の墳丘が平らに削られ、姿を消していった原因の一つとして、古墳時代が終わった後、古代に行われた開発行為があげられます。古市古墳群周辺の古代の開発では、前代に造られた大きな古墳の近くまで建物が建てられたり、井戸などが掘られたりしました。また、古墳に立てられていた埴輪を井戸枠や排水管に再利用したものも認められます。このような過程の中で、姿を消していった古墳があった

のでしょう。

さて、古代の開発を象徴するものとして、古市大溝の開削があげられます。

古市大溝とは、古市古墳群の古墳の間を縫うように掘られた、古代の水路のことです。7世紀初めにつくられ、地上の灌漑を目的とするものであったと考えられています。現在は地中に埋もれていますが、発掘調査で確認したところでは、上面の幅7・4メートル、深さ3・9メートルもある大きなものです。この古市大溝築造の際に、野中の古墳群や青山の古墳群で、大溝の通り道にあつたいくつかの古墳を壊していることが分かっています。

野中の古墳群は、藤井寺市の南部、下田池の周辺に広がり、4世紀後半から6世紀前半にかけて、少なくとも7



▲古市大溝と、壊された下田池古墳

基の古墳があったことが分かっています。また、青山の古墳群は、それよりもさらに南東の、羽曳野市との境界付近に広がっています。5世紀中葉から後葉に造られ、11基の古墳が認められます。

古市大溝開削の際に壊された古墳は、野中の古墳群では、下田池古墳、矢倉古墳、青山の古墳群では、軽里4号墳があげられます。ここでは、私が発掘調査を担当した、下田池古墳についてお話をします。

下田池古墳は、墳丘の直径25メートルの円墳で、幅5メートル前後の濠がめぐっています。調査では、古市大溝の築造の際に、濠の西側の一部が損壊された状況が認められました。そして、損壊した濠を埋めるにあたって、周辺

### 古市古墳群の小さな古墳たち ～その実像にせまる！～

4 壊された古墳  
～野中の古墳群と青山の古墳群の事例から～

の地面を掘ったときに出ると同じ土を用いている部分がありました。つまり、古市大溝を掘った時に出た土で下田池古墳の濠を埋めたと考えられるのです。古代の開発で古市大溝を掘削するにあたり、その流路にあった古墳がどのように扱われたかを示す貴重な事例となりました。

古代には、古墳を壊してまでも開発行為を進めようとしていたことが、古市大溝と壊された古墳との関係から分かります。このこと背景には、前代の権威の象徴であった古墳に対する人々の認識の変化があったと考えられるのです。

(文化財保護課 新開 義夫)